

## B-2. 仲間と共につくり出す樋の遊び 今幼稚園（岡山県岡山市）〈5歳児 6月下旬～7月〉

### (1) 本事例の趣旨

素足になって、砂場で繰り広げられる山作り、トンネル作り、そして川作り。5歳児のこの時期になると、友達と考えを伝え合いながら、ダイナミックに遊びを進めるようになる。昨年の年長児は、樋を保育室に長くつなげ、カラーボールを転がすことを楽しんでた。その時4歳児だった幼児たちは年長児が作った樋の道に好きな色のボールを転がし、トンネルの中を通ったり、ゴールさせたりすることを喜んでた。このような経験を生かして、長さの違う樋やジョイントを幼児の願いに合わせて用意していくことで、水の流れや樋の角度などを試したり、工夫したりしながら自分たちの考えを実現する楽しさを味わうことができるようにしたい。



### (2) 実践の展開

#### ① 流す対象を変えることで

(6月下旬～)

砂場では、3人の幼児が山を作り、そこへ樋(70cm)を使って水を流すことを楽しんでいる。教師も遊びに参加し、それぞれの幼児の考えを受け止め、広めていくことで、友達と考えを出し合いながら、流すものを試していくことができるようにしたい。

幼児

教師

教師の読みとり

水を流してみよう。

あれ？砂は、流れないよ。

前の大きい組さんがしていたよね。きっとできるよ。やってみよう。

カラーボールはどうかなあ。

いろいろな色のボールが流れてくるね。



やったあ！流れたよ。

今度は赤いのを流すよ。

どんどん流れるよ。

いっぱい流れて楽しいね。

昨年の年長児の遊びを思い出し、カラーボールが流れることを予想したんだな。いろいろな色のカラーボールを流すことを楽しんでいるんだな。

いろいろな色のカラーボールを流すことに満足すると、木切れや葉っぱなど砂場の周りにある様々なものを探して、樋の水に流し始めた。

やったあ！木も流れるよ。

見て、見て！葉っぱは、速いよ！

すごい。私も葉っぱを流してみよう。

〇〇ちゃん、私の葉っぱと競争しよう。

あっという間に流れるね。

やったあ。私の方が速かったよ！

もっと、速いものを探そう。



流すものによって流れるもの、流れないものがあること、流れる速度が違うことに気付いたんだな。

### 考察

- 教師が幼児の目のつきやすい所にカラーボールを用意していたことが、水に流れるものを試すきっかけになった。教師が幼児の考えを受け止め、周りの幼児に伝えていくことで遊びの人数も増え、友達といろいろなものを探して試すことができた。
- 流すものによって速度が違うことに、幼児が目を向けていることを読みとり、教師が周りの幼児に伝えていったことで、友達同士で速さ比べをする競争ごっこにつながった。そのことで、どんなものが速く流れるのかという認識が深まった。

② 樋の角度を変えることで

(7月上旬～)

友達といろいろなものを流して速さを競って遊ぶ中で、もっと樋を長くしたいという思いが生まれた。友達と協力して樋をつなげたり、角度を工夫したりしながら遊べるよう、70cm、100cm、150cmの樋、2種類のジョイント、板や瓶のケースなど台となるものを準備した。

もっと長い道の方が楽しんじゃない?      もっと樋をつなげよう。      前の大きい組さんがこれ(ジョイント)を使っていたよ。

ジョイントをはめるのは難しいなあ。      ぼくは、こっちを持つよ。      友達と共通の目当てをもって取り組んでいるな。

〇〇くん、手伝って。

2人で力を合わせると樋をうまくつなげることができるね。どんどん長くなるね。

今度は、こっちにつなげようよ。      いいね。分かれ道にしよう。

滝も作ろう。      長い樋を持って来よう。      どっちに曲げようか。

もう一つ瓶のケースをのせよう。      このジョイントは、曲がってしまうよ。

やったあ! 大きな滝ができた。      すごい速いよ! 超特急だあ。

いろいろな道ができたね。みんなは、ぴったりの道具を見つけられるんだね。すごい!

これ(瓶のケース)をトンネルにしない?      この樋は長すぎて通らないよ。これ(70cm)にしよう。

大変! ここで葉っぱが止まるよ。      どうしてかな。ここは、うまく流れるのにね。何が違うのかな。

あっ、ちょっとだけ斜めにしないといけないのかも...      成功、成功。大成功!

ちょっとだけだから、小さいの(木の板の台)にしよう。

考察

○ 幼児がつまづいている時に、うまくいくところとそうでないところの違いに目を向けることができるような声掛けをした。そのことで、トンネルの中は道が狭くなり、物が通りにくいことや角度を水平にしてはものが流れないことなどに気づき、友達と共通の目当てに向かって考えを出し合い、工夫する姿が見られた。



③ みんなで流しそうめんをしよう!

(7月中旬～)

保育室からタフロープを持って来ると流しそうめんごっこが始まった。一人の幼児が上流部から細く裂いたタフロープのそうめんを流すと他の幼児が箸と器を持ってキャッチする。わくわくドキドキする歓声に誘われて年少児や他のクラスの友達などたくさんの幼児が集まり始めた。その後、たくさんのお客さんと一緒に楽しみたいという思いから、瓶のケースや机などを積み上げたり、保育参加日(遊ぼうDAY)にお家の人に手伝ってもらったりしながら、砂場からプールまでのダイナミックな水路を完成させ、流しそうめんを楽しんだ。

ポイント

砂場で繰り広げられる樋の遊びですが、保育者の環境構成への目配りに支えられて、さまざまな遊びに展開しています。仲間とじっくり時間をかけてかかわる中で、考えを出し合い、さまざまな試行錯誤をするなど、生き生きと活動している様子がよく現れています。